

かつの微生物農法研究会便り

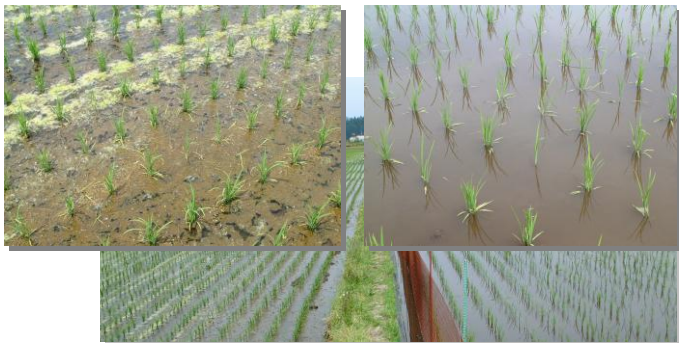
H25.5.1 No.126 (通算)



田植え直前の田んぼは、鏡面のよう。

豊富な雪解け水で満たされる水田。

4月中旬の播種から始まった苗作りも進み、5月20日頃にはいよいよ田植えの時期となります。この冬と早春は雪が多いだけでなく例年よりとても寒かったのですが、幸い田植え期の水不足は無さそうです。東アジアに特有の「水田」は、単なるコメ生産の農地というだけでなく、実は多機能ダムとして大きな意味も持っています。一年を通して降雨の多い湿潤な土地柄、集中した多量の降雨なども、水田がため池がわりとなって、下流域の急激な増水を防いでくれますし、夏の猛暑の時期は水を張った田面が熱を反射しまた吸収してくれます。日本中にある水田に蓄えられる水の量は莫大です。コメ余りと言われ減反が増大し続けている現状と、年毎に起る住宅地の水害は、決して繋がりが無いとは言いきれないでしょう。温暖化が原因とみられる異常気象が年々増えてきている今こそ、水田の優れた環境緩和機能を見直すべきではないでしょうか。



写真左が「微生物農法」の田面、右は「アイガモ農法」の田面で。微生物農法の田んぼは、正直にいうとちょっと汚いようにも見えますが、これは藻などの生物が大量に発生しているため。これが田んぼの中の（イネを含めた）生態系を形成し、独特の自然な美味しさをかもし出す生命のスープになるのです。

「微生物農法」って何のこと？

地球上の生き物の世界は微生物が主役

水田の土の中には沢山の種類、膨大な数の微生物が活動しています。私たち人間のお腹では善玉菌と悪玉菌のバランスが崩れると体調が悪くなりますが、イネにとってのお腹を水田土壌、とらえたのが微生物農法です。水田の土も微生物のバランスを整えてやるのがとても重要で、そのバランスが崩れるとイネが病気にかかりやすくなったり、生長が上手くいかなかったりします。有機肥料や堆肥で微生物バランスを良好に保つことで、健康で自ら美味しくなる作物作りをするというのが微生物農法です。

食べてお得なサービス実施中。

ポイントシールをためて送ると必ずもらえるプレゼント！



お買い上げいただいたお米、2800円毎に一枚ついてくるシールを集めて専用台紙に貼って送ると、お米などをもれなくプレゼント！

生産地から

5月は稲の苗作りから田植えのシーズンですが、色々な野菜も苗作りから畑や農業用ハウスへの定植ととても忙しくなってくる時期です。他に漏れず農業従事者も農家戸数もどんどん減っていている鹿角地域ですが、昨今の国産食料品への関心の高まりに期待し、今年こそはという気持ちで頑張っています。良いものは良い値段で、それなりのものはそれなりの値段で、市場経済そのものの形こそが、生産者の唯一無二の望みだったりします。



←花の種まき。花の種はごくごく小さく、細やかな作業が苦にならないようでないとうまくできない。病気も虫もつけてはいけない花の管理は根気が必要。それと花心も。



→トマトの苗。苗作りでその後の生長と収穫に大きな差が出てきてしまうため、根の張りや茎の太さ、葉の大きさ、色合いなどを天気と格闘しながら上手に調節して育てなければならない。



←カボチャの苗作り。トマト同様、苗作りは赤子の世話と同じ苦労。最初は小さなポットに密植し、生長とともに大きなポットに移して徐々に間隔を空けていく。



『鹿角の萌えみのり』好評発売中です。白飯としての総合的な美味しさは『花輪ばやし』に譲るものの、チャーハンやカレー用のご飯、また寿司のシャリ用としては抜群の相性です。品種は「萌えみのり」ですが、鹿角の萌えみのりは当地ならではの美味しさ。炊き上がりの光沢も素晴らしく、独特の食感で食べ応えのあるお米です。ご自宅用に、またご贈答用に是非一度お試し下さい!!

鹿角の萌えみのり



菜々の油

人気です! 田んぼの転作から生まれた純国産菜種油。圧搾のみの完全無添加。

300ml 630円 720ml 1,260円



Twitter やってます。

@ambotencho

<http://umaikome.jp>

ホームページも是非ご覧下さい。

携帯からもご利用できます



美味しいお米と特産品のご注文/お問合せ先は・・・
〒018-5201 秋田県鹿角市花輪字赤川端7-3

有限会社 安保金太郎商店

フリーダイヤル 0120-08-2028

WEBショップ <http://umaikome.jp>

e-mail kintaro@umaikome.jp



農家は家長が社長。ということは奥さんが専務か。どうもこの職業は社長より専務の方がオーソリティな農家が多いよう。



ぜひ一度
かづの
鹿角へ遊びに
来てみて下さい!

有限会社 安保金太郎商店
かづの微生物農法研究会
事務局

文・写真: 安保 大輔

この「微生物農法研究会便り」のバックナンバーや、毎月発送などのご希望がありましたらご一報下さい。感想もお待ちしています。